



和泉市立総合医療センター
IZUMI CITY GENERAL HOSPITAL

令和6年4月

No.199

(毎月1回発行)

地域連携センターだより



発行/和泉市立総合医療センター 地域連携センター

電話/直通 0725-41-3150

FAX/直通 0725-41-2513

代表 0725-41-1331

総長就任のご挨拶



やわらかな春風に心華やぐ季節となりました。皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

福岡正博先生、村上天子先生の後を継ぎ2024年度より三代目の総長を拝命いたしました光富(みつどみ)徹哉です。紙面を借りてご挨拶申し上げたく存じます。

私は福岡市出身で、1980年九州大学医学部卒業後、第二外科に入局、呼吸器外科を専攻することとなりました。その後、留学、九州大学 助教授を経て、1995年に愛知県がんセンター病院 胸部外科部長として赴任しました。16年在籍し、副院長を経て、2012年近畿大学医学部呼吸器外科の初代教授として大阪の地に赴任して参りました。2022年に定年退職後、2年間は特任教授として引き続き近畿大学にお世話になるとともに、週一回は和泉市立総合医療センターに伺っておりました。この度常勤として赴任し当センターの発展の為に貢献する機会を頂けることを嬉しく存じております。

昨年、当センターのミッション ビジョン バリュー（右図）を策定し、今後はこれを基本方針として病院機能を充実させていきたいと思っております。この過程において、職員の間でいろいろな意見交換が為されたことこそが貴重な過程であったと思っております。

ミッションでは泉州地域と銘打つかどうかに議論がありました。患者さんは泉州地域以外からも来ら

総長 光富 徹哉

れることもあります。和泉市公設であるという自覚、和泉市の地域医療に貢献すべきということで、あえてその言葉を残すこととしました。

ビジョンではナンバーワンとは何かを議論となりました。ここには実現は少し困難かもしれないが遠い目標という意味合いで考えれば、あらゆる尺度で測っても最高水準となることを目指そうという意味をこめています。

バリューでは患者さんの安全、権利のどちらを一番上にもってくるかで様々な意見がありました。患者さんの自己決定を重んじるのか、安全に配慮して身体抑制をするのか、難しい問題だと思います。議論の末、今回は安全を第一にもってきましたが、今後も折に触れてこれを見直し、理想の病院に少しでも近づけるよう努力して参りたいと思っております。

バリューでも謳っておりますように、今後も地域の基幹病院として皆様と連携を取りながら、住民の皆様が安心して暮らせる医療の発展に向けて歩んで参りたいと願っております。ご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

Mission
泉州地域の皆さんの生命(いのち)と健康を守るために最善最適な医療を提供します

Vision
地域から選ばれ、人が集まるナンバーワン医療を目指します

Value

- 患者さんと職員の安全と安心を第一に考えます
- 患者さんの権利を尊重し、優しくかつ納得できる医療を提供します
- 情報を共有し、お互いを尊重する円滑なチーム医療を実践します
- 自己研鑽・生涯学習に務め、探求心をもち続けます
- 限りある資源を最大活用し業務の効率化に務め、健全な病院経営を行います
- 次世代を担う人材の教育と育成に務めます
- 和泉市、近隣の医療・福祉施設等を尊重した連携を促進します

和泉市立総合医療センター
2023.08.01

新年度のご挨拶



病院長 松下 晴彦

桜花爛漫の好季節、皆様方におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

旧和泉市立病院は10年前の平成26年4月から医療法人徳洲会の指定管理となりました。指定管理となった要因は大きく3つありました。第一は経営状態の悪化、第二は旧病院の老朽化、第三は救急医療です。平成30年4月に和泉市立総合医療センターとして新たなスタートをきり、多くの医療関係者、患者様からの信頼を回復しこれらの問題はほぼクリアできたと考えています。これは皆様の温かい支援の賜物です。

現在、正面玄関前の河川敷から公園にかけて駐車場の工事を進めております。これは薬局裏に計画されている増築棟の建設準備のためです。早ければ令和7年秋には増築棟が完成する予定です。増築棟では外来部門、化学療法室およびHCUを中心とした運用を予定しています。

増築棟の完成にはもうしばらくの時間が必要ですが、令和6年度より3つのセンター、呼吸器内科・呼吸器外科を中心とする呼吸器センター、

腫瘍内科を中心とするがんセンター、脳神経内科、リウマチ・膠原病内科を中心とする難病センター、を展開する予定です。

呼吸器センターにおいては令和6年度から呼吸器内科と呼吸器外科の病棟部門を統合し、より疾病中心の医療を目指す予定です。

がんセンターは国指定がん診療連携拠点病院の指定前より多くの実績を上げてまいりましたが、今後さらに地域のがん医療に貢献できると考えています。

脳神経内科、リウマチ・膠原病内科を中心とする難病疾患は地域で専門医療を行っている病院が少なく患者が和泉市だけでなく遠方からも受診されます。すでに多くの難病患者を治療しており、その実績が認められこの4月に大阪府の難病診療連携拠点病院の指定を受けました。

またセンターのみならず救急医療、災害医療にも注力してまいります。どうか今年度もご支援のほどよろしくお願いいたします。

新年度のご挨拶



特任病院長 西岡 伯

平素より地域の医療や介護に携わる皆様には、多大なご協力とご支援を賜り誠にありがとうございます。

早いもので、当センターも今年で移転後6年が経ちました。この間当センターでは様々なことがらに挑戦してまいりました。中でも特に大きな成果は国指定地域がん診療連携拠点病院と地域医療支援病院に名を連ねることになったことでしょう。それは多くの職員が団結し、病院の実績を積み上げてきた賜物ともいえます。

私は泌尿器科が専門であることから、主に外科系診療科の歩みも間近に見てまいりました。特に手術件数については、移転直前の旧和泉市立病院の時代は年間1200件余りであったものが、和泉市立総合医療センターとして現在の地に移転後の2018年には2300件を超え倍増しました。これは新たな外科系診療科が加わったことが一つの重要な要因であります。さらにそれ以降も手術件数は増加の一途をたどっており、昨年度は年間3000件を上回る手術を実施するに至っています。

また、ここで特筆すべきは2020年7月の手術用ロボットda Vinciの導入です。da Vinciの内視鏡は肉眼と比べると格段に解像度が良く、細部まで見えるため、精緻な手術が可能となりました。また、鉗子の操作性の不自由さが改善され、腹腔鏡下手術の欠点を補い、より安全で患者さんの身体への負担が少ない手術が行えます。

当初は最も前から保険収載されていた泌尿器科の術式を中心にda Vinciを使用し、翌年度は123件のロボット手術を行いました。その後は、外科系各科も多くの術式にda Vinciを適用し、その件数は順調に増加し、昨年度は200件を超えるに至り、今年度には2台目のda Vinci増設も視野に入れております。

このように我々は、常に患者様により質の高い医療サービスを提供できるよう挑戦し続けます。

いざという時に頼りになる病院を目指し、職員一同これからもより一層の努力をする所存でございます。本年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

入退職医師のご案内



令和6年4月 入職常勤医師

呼吸器外科	みつどみ 光富	徹哉
呼吸器内科	しんたに 新谷	穰
呼吸器内科	つかもと 塚本	遥香
肝胆膵外科	のざわ 野沢	彰紀
肝胆膵内科	むらまつ 村松	敏郎
形成外科	やまうち 山内	誠
血液内科	ふかの 深野	あや乃
血液内科	たかはし 高橋	亜依
血液内科	やまだ 山田	喬之
歯科口腔外科	こんどう 近藤	敬秀
消化器内科	たかしま 高島	耕太
消化器内科	こまたに 駒谷	真
消化器内科	おかざき 岡咲	貴博
整形外科	たちばな 橘	拓也
整形外科	きたむら 北村	知也
皮膚科	あやの 綾野	悠加
皮膚科	なかむら 中村	沙彩
小児科	うちこし 打ち越	史佳

脳神経外科	みやうち 宮内	正晴
脳神経内科	むらかみ 村上	沙織
脳神経内科	たばた 田畑	健人
脳神経内科	みなみの 南野	麻衣
放射線科(治療)	あまの 天野	公輔
リウマチ・膠原病内科	つちもと 土本	和司
循環器内科	のもと 野元	陽太
麻酔科	なかい 中井	大嵩
病理診断科	おちあい 落合	健
緩和医療科	いけだ 池田	和世
初期研修医	なかや 仲谷	治樹
初期研修医	いなおか 稲岡	宏幸
初期研修医	たなか 田中	宏樹
初期研修医	もりや 森谷	亜里紗
初期研修医	うちだ 内田	美紀
初期研修医	さいとう 斉藤	美紅
初期研修医	きむら 木村	誠一
初期研修医	つじ 辻	真之介

令和6年3月末 退職常勤医師

循環器内科	松本	健嗣
血液内科	谷口	貴英
整形外科	河鱒	拓也
整形外科	辻野	正志
肝胆膵外科	岡田	拓真
肝胆膵内科	白井	壺紀
小児科	赤井	結衣
耳鼻いんこう科	西出	友美子
皮膚科	夏見	亜希
放射線科(治療)	松田	尚悟

リウマチ・膠原病内科	遠藤	菜奈子
呼吸器内科	石井	真梨子
呼吸器内科	上野	健太郎
病理診断科	安藤	司恩
緩和医療科	坂野	遼
歯科口腔外科	毛利	真弥
初期研修医	松本	峻介
初期研修医	大川	佳乃
初期研修医	吉田	明可



『第4回 歯科地域連携学術講演会』開催のご報告

令和6年3月17日（日）、和泉市歯科医師会との共催による『第4回 歯科地域連携学術講演会』をハイブリット形式で開催いたしました。お忙しい中、ご参加くださいました皆様には心より御礼申し上げます。第一部は歯科口腔外科 部長 水谷 雅英 医師より診療実績報告・新任医師の紹介、第二部は『「口から食べることを諦めない」ための支援と多職種連携』をテーマに、リハビリテーション科 主任 岸田 博喜 言語聴覚士より「口腔×栄養×リハビリテーション連携を目指して」、管理栄養士 係長 佐治 利章 管理栄養士より「急性期病院NSTチームの取り組み」、「在宅でできる食支援 ～知恵と工夫～」について講演を行いました。

会場参加27名、オンライン参加36名、計63名の歯科医師、歯科衛生士および医療・介護関係者の方にご参加いただきました。

講演会の開催を通して地域の先生方や多職種の皆さまに当院の取り組みを知っていただき、より良い連携を目指し、患者様第一の医療を提供するために精進していく所存です。

至らない点があるかとは思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



和泉市歯科医師会
会長 上嶋一之 先生



歯科口腔外科
部長 水谷 雅英



言語聴覚士
主任 岸田 博喜



管理栄養士
係長 佐治 利章



講演中の様子

ご報告

この度、和泉市立総合医療センターは令和5年11月30日付で大阪府難病診療連携拠点病院の指定を受けました。これもひとえに地域医療機関をはじめ関係機関の皆さまからのご支援、ご指導の賜物と厚く御礼申し上げます。

今後の地域医療連携との連携を図りながら、地域の中核病院として急性期医療と専門性の高い医療の提供に努めてまいります。

4月の休診・代診について



休診・代診については、ホームページ（休診案内）をご確認いただくか、地域連携センターまでお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。



地域連携センター
予約受付時間

和泉市立総合医療センター 地域連携センター

月～金曜日 9：00～19：00まで

土曜日 9：00～13：00まで

（但し祝日・年末年始の休日は除く）

TEL: 0725-41-3150（直通）

FAX: 0725-41-2513（直通）

